

## 2. 火山の概況 (平成 15 年 2 月 13 日 ~ 平成 15 年 2 月 19 日)

摩周では地震がやや多くなった。浅間山、三宅島では火山ガスの放出量が多かった。阿蘇山では孤立型微動の多い状態が継続した。桜島では噴煙活動が継続した。薩摩硫黄島では連続微動が発生しごく微量の降灰があった。諏訪之瀬島では連続微動があった。

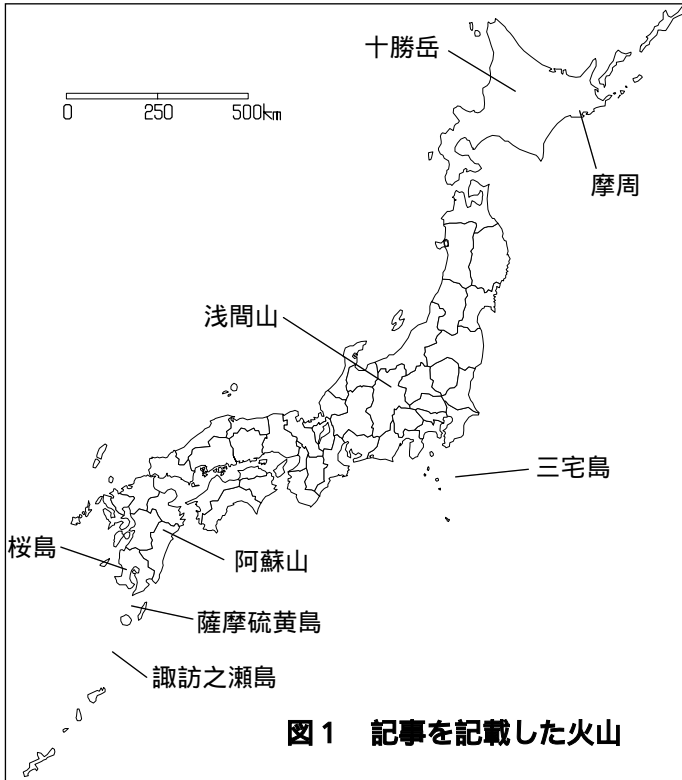


表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	摩周	十勝岳	岩手山	浅間山	三宅島	阿蘇山	桜島	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島
8	2/13- 2/19									
7	2/ 6- 2/12									
6	1/30- 2/ 5									
5	1/23- 1/29									
4	1/16- 1/22									
3	1/ 9- 1/15									

**注 1 記号の意味**

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に变化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

**注 2** 本文の火山名の後ろの[]内の[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ等を示す。

### 摩周 [地震]

前期間の 12 日から 13 日にかけて摩周湖付近を震源とする地震がやや多くなり、地震回数は 12 日 11 回、13 日 40 回で、弟子屈町美里では、13 日 04 時 17 分の地震で震度 2 を、その他 2 回の地震で震度 1 を観測した。

その後、地震活動は低調となり、14 日の回数は 3 回、15 日以降は発生しなかった。

### 十勝岳

前期間の 8 日に比較的規模の大きい微動が発生したが、それに関係して地震活動や噴煙の状況に変化はなかった。

今期間は微動の発生はなく、その他の観測データにも特に異常な変化はなかった。

### 浅間山 [噴煙・火山ガス]

前期間の 6 日に小規模な噴火が発生したが、その後、噴火は発生していない。白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上 500m (19 日) であった (前期間 200m)。

19 日に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は日量約 1,000~1,900 トンと多い状態であった (前回 (7 日) 日量約 1,900~2,700 トン、図 2)。

地震回数は 1 日当たり 10~33 回で、地震活動に特に変化はなかった (前期間 8~38 回)。

GPS 及び傾斜計による地殻変動観測では、特に異常な変化は観測されなかった。

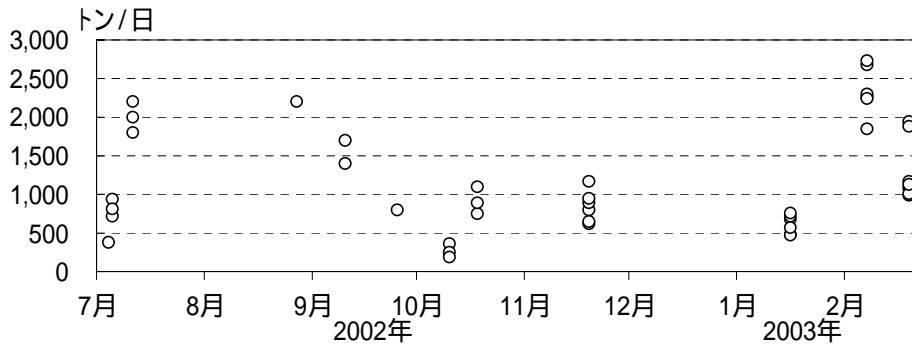


図2 浅間山 二酸化硫黄放出量 (2002年7月～2003年2月)

### 三宅島 [噴煙・熱・火山ガス]

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上 800m (13日)であった(前期間 700m)。

19日に気象庁、産業技術総合研究所及び大学合同観測班が行った上空からの観測\*では、主火口からの白色噴煙の放出が継続し、火山ガスを含む青白い噴煙が火口上空から東へ流れていた。山体の地形や火口の状況等に大きな変化はなかった。赤外熱映像装置による観測では、火口内の最高温度は 150 以上\*\*であった(前回(1月22日) 258 )。

また、同時に気象庁が行った火山ガス観測\*では、二酸化硫黄の放出量は日量約 6,200～8,500 トンと長期的には低下傾向がみられるものの依然多い状態であった(図3)。

地震活動は、前期間の12日22時13分に三宅島西方約10kmで発生した地震(M(マグニチュード)4.7)の余震が引き続き発生しているが、その回数は減少傾向にある。震度1以上を観測した地震、振幅のやや大きな低周波地震は発生せず、総じて地震活動は低調であった。

GPS観測では、収縮の傾向にあった三宅島の地殻変動は収縮率が小さくなり、静穏期にもみられるわずかな膨張に転じている。

\* 陸上自衛隊の協力による

\*\* 参考値(噴煙が主火口を覆っており、最高温度が測定できなかったため)

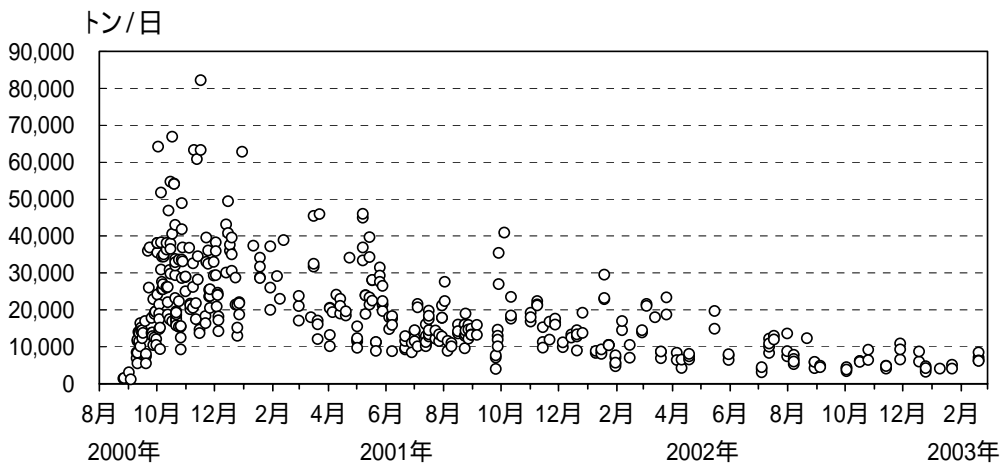


図3 三宅島 二酸化硫黄放出量 (2000年8月～2003年2月)

## 阿蘇山 [微動・熱]

孤立型微動の多い状態が継続している。今期間の発生回数は、1日当たり119~178回、合計は1,021回であった（前期間1,303回）。

地震回数は少ない状態が続き、1日当たり6~21回で、合計は88回であった（前期間36回）。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上600m（13日）であった（前期間400m）。

14、17日に実施した中岳第一火口の観測では、2000年9月以降見られている南側火口壁の赤熱現象が引き続き確認された。赤外放射温度計による最高温度は475（前回（1月17日）469）と依然高い状態であった（以上図3）。火口内は依然全面湯だまり、色は緑色で、最高温度は57（前回（1月17日）52）と特に異常な変化はなかった。

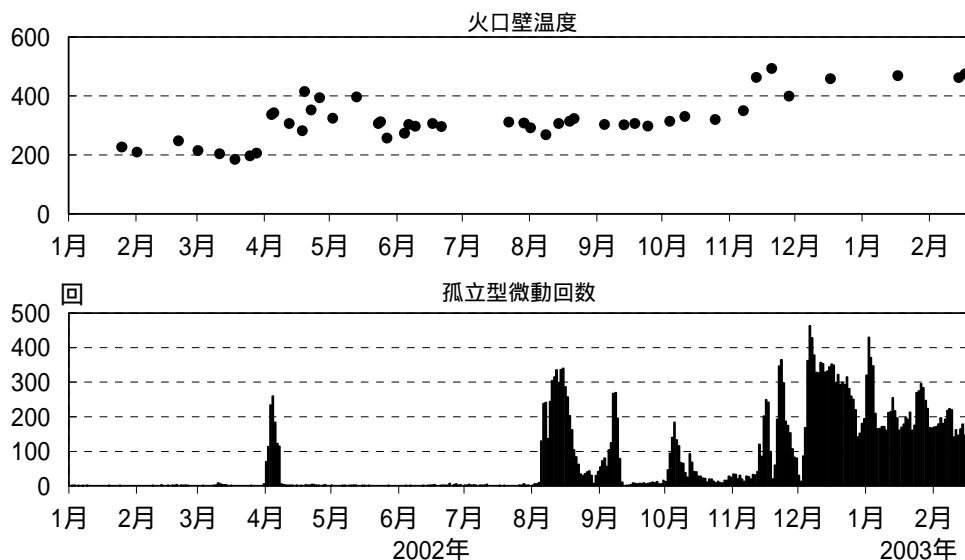


図3 阿蘇山 中岳第一火口南側火口壁温度（上図）  
孤立型微動日別回数（下図）  
（2002年1月1日～2003年2月19日）

## 桜島 [噴煙]

今期間噴火はなかった（前期間爆発<sup>\*</sup>1回）。

噴煙高度の最高は、火口縁上500m（13、14、17、18日）であった（前期間2,000m）。

鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）では降灰は観測されなかった（前期間もなし）。

\* 噴火の一形式で爆発的噴火の略

## 薩摩硫黄島 [微動・降灰]

火山活動の活発化を示す連続微動が、16日11時32分～18日14時12分、19日03時00分～06時54分に発生した。三島村役場硫黄島出張所によると、島内の集落（硫黄岳の西約3km）では、17日にごく微量の降灰が確認された。

地震活動は低調で、1日当たり1~14回、合計は48回であった（前期間47回）。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上400m（14、15、17、19日）であった（前期間600m）。

## 諏訪之瀬島 [微動・鳴動]

期間中、爆発は発生しなかった（前期間もなし）。

火山活動の活発化を示す微動の発生状況は、連続微動が前期間の11日20時00分～15日11時56分に発生した。地震活動は低調で、1日当たり0~7回、合計は14回であった（前期間32回）。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、島内の集落（御岳の南南西約4km）では、13、14日に鳴動が聞こえた。降灰は確認されなかった。

**表 2 火山情報発表状況**

火山名	火山情報名	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第 83 号 (1日2回発表) 火山観測情報第 96 号	13 日 09:30 19 日 16:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)
阿蘇山	火山観測情報第 7 号	17 日 09:40	孤立型微動の多い状態が継続、中岳第一火口の噴煙活動に変化なし、中岳第一火口の現地観測結果(火口壁温度は依然高い状態、湯だまりの状態に大きな変化なし)
薩摩硫黄島	火山観測情報第 1 号	17 日 11:15	連続微動の発生、地震活動は低調、噴煙活動に異常な変化なし